

自己評価票

申請者氏名
評価者氏名
事業名称

評価項目	評価内容	自己評価			評価理由 ※評価の参考となる資料があれば別途添付してください。
		高い	標準	低い	
事業効果の妥当性	環境負荷低減の直接的な効果	○			申請書の期待される効果に記載したとおり、本事業において自社製品の〇〇を廃プラ由来の再生プラスチック原料で製造する技術を開発することにより、年間●トンの廃プラを再生資源として活用することが可能となる。
	環境負荷低減の間接的な効果		○		製品の製造に必要なエネルギーは、既存の製造設備を一部改造するものの、現在とほぼ変わらないと考えられる。また、CO ₂ 排出の観点で見ると、原料輸送等に係る二酸化炭素排出量が削減されていることが見込まれる。
	周辺の自然・生活環境への負荷		○		本事業の実施にあたり、外部へ排出が予想される有害物質等は特になし。
	先導性、モデル性	○			サーキュラーエコノミーの実現に向けて、令和4年4月1日からプラスチック資源循環促進法が施行される等プラスチックの資源循環促進への動きが加速化している。本事業において開発する製品については、国の定める「プラスチック使用製品設計指針」に準拠することを目標とし、製造した製品が国の認定を受けることができれば、県内においても先導的かつモデルケースとなりうると考えている。
	その他波及効果	○			本事業により製品化の見込みが立てば、製造ラインのスケールアップ及び生産ラインの増設を検討している。事業拡大となるため、新規の雇用を創出することができる。
事業計画の妥当性、実現可能性	事業の実施内容の適切性	○			当社は元よりプラスチック製品の製造販売を行っており、製造に関する技術と知見を有している。本事業の実施にあたっては、プラスチックの再生利用や再生原料の強度等の課題解決のため、〇〇大学の〇〇教授と共同研究により課題解決を図る。また、再生原料の供給元である〇〇社にも事業に参画いただき、より最適な原料適正についても調査を行う予定。
	事業内容の具体性、実現可能性				
	事業費、導入設備等の規模の妥当性		○		本事業の実施に要する経費については、費用の妥当性を担保するために、相見積もりを実施した。機械装置費に計上している…については、特殊な改造が必要であり、施工できる設備メーカーが限られている。今回見積りを依頼したA社は精度が高い…を制作できるため、本事業の成功には欠かせない。
	スケジュールの妥当性、適切性		○		本事業では、大きく3つの実施項目を検討する。初年度目には、…のシミュレーションを実施し、…2年目には、…。最終年度には、2か年の成果をブラッシュアップし、…。いずれも施工期間や試験期間を十分に加味し、余裕を持ったスケジュールで計画している。
	資金調達計画等の妥当性		○		事業採択された場合は●●銀行から融資を受けられる見込みである。融資の返済原資は、本事業実施による利益(再生資源売却益と経費削減額)で賄える予定であり、投資回収期間は設備の耐用年数と同程度である。
事業実施主体の適格性	実施体制(人員、役割分担、命令・連絡系統等)	○			別添の事業実施体制図を参照のこと。
	財務基盤(事業者の健全性等)		○		直近1年間には新型コロナウイルス感染症の影響で売上が落ち込んで赤字となったが、事業拡張により落ち込んだ分をカバーする見込みである。各種の財務指標は同業種の平均程度である。
	必要な技術・専門的知識の有無		○		当社は、開発部門に3名の技術者を有し、継続的に技術開発を行っている。今後、本事業に関連する開発を拡大していくために、開発部門の増員を計画している。
	大学や研究機関等の協力体制の確保		○		以前より、東北大学の●●研究室や宮城県産業技術総合センターとの共同研究を実施している。本事業においても、東北大学との共同研究を実施する予定である。
	社会貢献度(CSR、環境経営、経営者資質等)	○			ISO14001の認証取得をし、自社の活動による環境への負荷を最小限にする取組を実践している。その他、地域の行事への協賛や年3回の清掃活動を実施している。
事業計画等の将来性	事業内容の新規性、独創性	○			本事業には既に取得している特許技術を活用する。また、本事業における開発が進めば、新たな特許取得の可能性がある。
	事業内容の優位性		○		開発する製品は、バージン材を使用する類似製品と同等の性能を目指す。
	市場の成長性、安定性	○			脱炭素社会への移行の過程で、化石燃料由来のプラスチック使用量は減少すると思われるが、一方で国は2035年までに使用済みプラスチックの100%有効活用を掲げており、今後、プラスチックの再生資源への需要は高まると考えている。
	事業内容の話題性、発展性	○			本事業において開発する製品については、国の定める「プラスチック使用製品設計指針」に準拠することを目標とし、製造した製品が国の認定を受けることができれば、一定の話題性が見込まれる。
	事業継続の見込み	○			今年度は、申請書に記載のとおり、〇〇の検討と△△の検討を実施する。次年度以降は、今年度の成果を踏まえて、●●の検討と試作ラインの整備を順次実施する。